

やさと 八郷町

1. 沿革

この町は、新治郡の北部筑波山麓に位し、常磐線石岡駅から西へ約10軒、東は東茨城郡の一部と石岡市、千代田村に、西南は筑波山を隔てて筑波郡へ、西は足尾加波山を隔てて真壁郡に、北は吾国、難台、愛宕山を境に西茨城郡へそれぞれ隣接しており、昔から山根盆地といわれ恋瀬園部の二流をはさんで風光明媚山紫水明の地である。昔この地方は恋瀬川の水運を利用して先住民が住んだらしく、崇神天皇時代常陸六国中の茨城国に属し、大化改新で茨城郡となり、鎌倉時代に筑波水田の豪族小田氏の勢力下に入った。戦国時代には、常北の豪族佐竹氏の支配下になって石岡の梶原政景が領有し、徳川時代の初期に佐竹氏が秋田に転封されて天領や大小名に分領となり、三百年を経て明治維新におよび、まず若森県、明治4年の廃藩置県で新治県の管理に改められ、明治8年に茨城県に編入されたのである。そして昭和30年1月1日には柿岡町を中心に、隣の林、園部、瓦会、恋瀬、葦穂、小幡、小桜村を合体として、その名もゆかしい八郷町が誕生し、実に面積153.30平方軒、人口33,078人(男16,178、女16,900)世帯数5,738を有することになり、県下第2位の大きな町にのし上り、進歩的な農業地帯を中心として町民の福祉増進と文化的な平和郷の建設のために力強い足跡を示している。

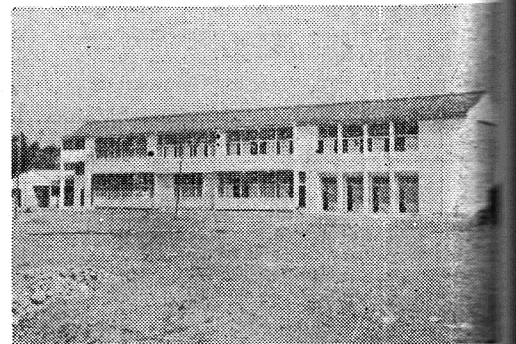
2. 産 業

まず農業面を見ると、農家数4,645戸、農家人口27,879人(男13,547、女14,332)耕地面積4,647町(田2,110、畑2,125、樹園地412)を有している。中でも大麦683町、小麦927町、なたね201町、大豆295町、さつまいも426町、たばこ340町、らつかせい164町、くり(結果樹)142町に達しているが、特にたばこは年間735,426疋、2億3千万円の収入をあげて、くりとともに農家収入の大きな役割を果たしている。この地方は、昔から経済更生業や農業経営の改善合理化が進んでおり、30年からは新農村建設計画指定町となって、総合的、科学的立場から耕地条件の改善整備、地力増進、災害防止、道路橋梁の整備、農業の機械化、畜産など農業各般の振興計画を進め、県内は無論、全国でも有数の実績を取っている。町としても農業協同組合、出荷組合の統合強化を計り、農産物や果樹類の共同出荷を行い、なし、くり、かきなど品質は優秀で神田市場でも好評を博している。また促成栽培も非常に普及しており、きゅうり、とまと、グリーンピースの生産も多く、最近では花卉類やしいたけの栽培も復活し、本年から相当出荷できるとの由。次に畜産面を見ると、乳牛488頭、役牛797頭、馬1,187頭、めん羊163頭、山羊682頭、豚758頭、兎997頭、にわとり21,928羽を有しているが(昭和32年冬期調査)8地区の酪農組合は他市町村に比べて非常に進んでおり、40石の牛乳を石岡地方へ搬出している。今後は足尾、小桜、園部地区を中心に優良種豚を貸付けて、豚の飼育を奨励して農家収入の増加を計る由。土地改良事業も昔から実施されており、このほど筑波山麓に貯水量百万石の温水ダムを建設中である。県内でも珍しい農事放送施設がすでに園部地区に完成し32年度は小桜、恋瀬地区に建設することになり、農業に関する広報活動を充実しようとしている。次に農機具の普及状況は、電動機808台、石油発動機685台、ハンドトラクター1台、動力耕うん機28台、動力脱穀機1,382台、足踏脱穀機1,315台、動力糶すり機575台、動力製粉機327台、動力精米機690台、動力精麦機71台、動力噴霧機11

台、人力噴霧機283台、マスター1台、動力製罐機72台、動力製糶機311台、足踏製糶機1,250台、畜力カルチベーター7台、畜力水田中耕除草機59台、畜力砕土機715台、動力いも糶飼料機6台、畑用播種機144台、畑用畜力すき418台、水田用畜力すき1,813台、家畜用いも磨砕機6台、家畜用いも切機44台に達し、農業の機械化は非常に進んでいる。また養蚕業も盛んで、養蚕農家は928戸で年間取高は32,902メに達しており、農家の現金収入増加に大きな役割を果たしている。次に商業面を見ると、法人および常用労働者を有する商店数19、従業者数130名で年間販売額1億8千万円を上廻り、常用労働者のいない商店数273、従業者数505名、年間販売額(6月中)が1,927万円余に達している。また工場数は56、従業員数201名、年間製造出荷額1億1,228万円余に達しているが、製材業や窯業および土石製造業、食料品製造業などの外に見るべきものはない。

3. 教育文化

ここには高校(分)1、中学校8、小学校14(分)10各種学校があつて、高校生徒57名(男37、女20)中学生2,253名(男1,114、女1,139)小学児童4,646名(男2,332、女2,323)各種学校生徒女72名に達しており、ぼう大な規模を有する各地区の学校施設の統合強化と整備拡充を努めている。特に石岡一高八郷分校を今年から3カ年計画のもとに町費から工費3,765万円を投じ突貫工事で建設に着手したが、その一部が完成して去る4月に開校運びとなった。青年婦人団体や農事研究団体の活動は、活発で、スポーツ、レクリエーション、指導者講習会、生活改善の推進などを行っているが、筑波山麓に年研修のキャンプ施設を120万円(半額国庫負担)を投じて建設中である。国民健康保険組合は、31年から足尾、足尾地区を含めて全町加入を実現して、町民の生活の改善向上に大きな役割を果たすことだろう。消防団についても統合強化を計り、5カ年計画で可搬式ポンプを切換えを断行し自動車ポンプ1台、三輪車ポンプ2台、搬式動力ポンプ35台、腕用ポンプ25台を有している。ここには名所旧蹟として、親鸞上人にゆかりの深い板敷大覚寺、徳川末期の詩人佐久良東雄の生家、山県大墓、瓦塚、立木観音で知られる峯山山西光寺、崇神天皇代の遺跡を発掘した丸山古墳などがある。また柿岡町には、世界的に知られる気象庁柿岡磁気観測所がある。



(写真は完成途上にある八郷分校)

村の横顔

財政 昭和32年度一般会計歳入歳出当初予算額 (単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄附金	繰入金	繰越金	雑収入	町債	合計			
59,044,400	31,061,000	12,670	703,000	8,849,000	2,025,700	100	100	50,000	225,100	5,000,000	106,971,070				
歳出	議会費	役場費	警消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
1,894,000	24,345,300	5,540,980	7,621,900	45,977,700	1,824,900	1,678,480	7,911,271	325,340	102,300	3,274,200	5,202,670	1,000,000	106,971,070		

境町

1. 沿革

この町は東北本線古河駅から東南へ約15軒、猿島郡の中央に位し、地勢は概ね平坦で南北に長く、東は猿島町、西は利根川を隔てて五霞村、千葉県関宿町、南は井野町、北は総和村および三和村に隣接している平坦な農地帯で猿島地方における行政、文化、産業、交通上の中心地となつている。昔この地方は下総国に属し江戸の水運も開けて経済、交通上の要地となり、古河公方の領地として100年間支配され、徳川時代に入つてからは松平、永井、本田、堀田の諸氏の所領下となつた。明治維新後は伊蒲県や古河県、千葉県に編入され、明治7年に茨城県の管轄となつてしたが、昭和30年8月16日には旧境町を中心に隣の静、長田、猿島、森戸が合体して、面積45.60平方町、人口23,665人(男11,329、女12,376)世帯数4,060を有する新しい町が発足した。豊かな農村地帯の生産力発展をスローガンとして力強い歩み続けている。

2. 産業

まず農業面を見ると、農家数2,547戸、農家人口16,411人(男7,807、女8,611)耕地面積2,302町(田638町、畑1,525町)樹園地140町を有しているが、中でも大麦837町、小麦432町、ビール麦114町、さつまいも221町、たばこ10町に達している。従来の主穀経営方式から工芸、園芸、養蚕部門を取り入れた多角的経営に転換して農業所得の増加を計ろうとしている。特にたばこ、白菜、すいか、茶、かんぴょうなどの生産は非常に多く、将来は町営市場の開設を企図している。また最近ではぶどう、いちごの試験栽培に成功しており、今後の発展が注目される。次に畜産面を見ると、乳牛120頭、役牛1,168頭、馬10頭、めん羊63頭、山羊147頭、豚381頭、兎109羽、にわとり9,919羽を有し、酪農、養豚組合の育成強化を計っている。次に農機具の普及状況を見ると電動機493台、発電動機1,267台、ハンドトラクター2台、動力耕うん機2台、動力脱穀機1,565台、足踏脱穀機530台、動力糶り機354台、動力精粉機167台、動力精米機643台、動力噴霧機51台、動力噴霧機4台、人力噴霧機664台、ダス

ター3台、動力製籾機15台、動力製糶機164台、足踏製糶機1,320台、畜力カルチベーター496台、畜力水田中耕除草機5台、畜力碎土機18台、畑用播種機234台、畑用畜力すき601台、水田畜力すき350台、家畜用いも切機10台に達している。また土地改良事業も昔から進んでいるが、畑地かんがいの深井戸は中農以上の農家には殆ど普及しており、農業研究団体の活動も活発で先進地の視察や講習会などを開催している。次に商業面をみると、法人および常用労働者を有する商店数63、従業者数259名、年間販売額5億4,563万円余、常用労働者のいない商店数378、従業者数730名、月間販売額(6月中)3,674万円に達しており、食料品、衣服、身廻品、雑貨小売業が大部分を占めている。次に工業面を見ると、工場数63、従業者数282名、年間製造出荷額1億5,717万円であるが、酒、めん類製造業、製材業、家具桐材品製造業が大部分である。

3. 教育文化

ここには高校1、中学校3、小学校5(分3)各種学校1があつて、高校生徒633名(男453、女180)中学校生徒1,626名(男827、女799)小学校3,660名(男1,867、女1,793)各種学校生徒女24名を有して施設の拡充強化に努め、この地方における教育上の中心地ともなつている。青年婦人団体の活動も活発で、生活改善や料理、裁ほうなどの講習を行つており、特に冠婚葬祭の簡素化に非常に進み、町としても振袖5着、留袖2着を購入して一般に貸付したり、香奠返しや花輪の贈呈を廃止している。国民保険組合は31年から全町加入を実現し、直営診療所一カ所がある。また町営住宅は本年度20戸を建設中で、来年度も20戸を計画している。消防団も統合強化を計っているが、自動車ポンプは3台となり、他は可搬式動力ポンプに切換え中で、実績も非常に優秀で再三表彰されている。名所旧蹟としては、桜堤、丸山公園、釣り場、県内で唯一の貫取り橋などがある。本年6月には行政機構の簡素化のために支所を廃止したが、近代的な建業の庁舎を建坪230坪、総工費1,850万円で作成し、新しい名物となつている。

(新築成つた町庁舎の写真は30頁掲載)

財政 昭和32年度一般会計歳入歳出予算 (単位円)

歳入	町税	地方交付税	公営企業及び財産収入	使用料及び手数料	国庫支出金	県支出金	寄付金	繰越金	雑収入	合計					
34,437,100	16,000,000	16,600	328,600	3,666,100	947,400	840,100	3,000,000	611,100	59,847,000						
歳出	議会費	役場費	消防費	土木費	教育費	社会及び労働施設費	保健衛生費	産業経済費	財産費	統計調査費	選挙費	公債費	諸支出金	予備費	合計
1,321,300	16,017,900	4,847,800	4,995,300	11,066,600	5,691,400	1,519,400	4,478,152	190,300	190,100	51,600	912,000	7,176,500	1,426,700	59,847,000	